

キッズサポート部 会員からのメッセージ

キッズサポート部のメンバーが入会したきっかけや、読み聞かせ活動への熱い思いを語ります。きっかけも思いも様々ですが、子どもたちにおはなしの楽しさを伝えたい気持ちは全員共通です。

ご興味ある方、見学もできますので、お気軽にお問い合わせください。

キッズサポート部一同お待ちしております！！

リタイヤ後は子どもさんたちと紙芝居や絵本を楽しむ活動をしたと思っていて、5年前に現役引退を機にL.V.S.に入会させていただきました。現在、紙芝居や絵本を通じてお子さんたちと交流し、親御さんと家庭で一緒に読んでもらいたい作品を紹介したいとの思いで活動しています。

ことばを通じた人と人との関わりにつながる書籍は、幼少期の感性を育て、彼らの健全な発達に不可欠なものでもあると思っています。

おはなし室では、毎回お子さんたち、パパ、ママ、時にはおばあちゃんと会話ができるのが楽しみです。作品を読んでいるときに、親子で一緒に集中してもらい、年長さん以上にもなると掛け合いのようなやり取りもしてもらえるのは最高です。

田中正美

読み聞かせを始めて早いもので5年経ちました。コロナ禍に始めたので、最初は人と人の間隔を開けて9組までと人数制限がある中でした。コロナ禍にも関わらず沢山の子どもたちが聞きに来てくれて、嬉しかった事を今でも思い出します。

入会2年目には、わらべ歌や手遊びを主に勉強会で担当させてもらい、楽しく参加させて頂きました。私が知らなかったわらべ歌が意外にもたくさんある事に気付かされました。現在、キッズサポートの皆さんと一緒に過ごせる時間はとても貴重で楽しいひとときです。一緒に出来る仲間と共に月1回の読み聞かせを楽しく参加させてもらっている事が感謝です。これからもどうかよろしくお願い致します。

ありさん

「読み聞かせ やってます」

中央図書館で読み聞かせボランティアをやり始めて 4 年です。もともと子どもは好きだったのと、聞いている子どもの表情を見ていると癒されるからです。

1 年目は勉強会がありました。特に興味深かったのは、選書の仕方です。登場人物のつながりや1冊目から 2 冊目へと内容が広がっていくのです。一人で読むのは短いお話でも、頭の中で想像を膨らませて、長い本を読んだ気分になって、満足感を味わえると教えていただきました。月1回の読み聞かせで打ち合わせは取れなくとも、終わると登場人物や内容が不思議と一致していることが多くメンバーの心を感じています。最近、聞きに来る人数が増え嬉しいです。絵本や紙芝居を、前に来て触る様子がたまらなく可愛いです。

佐藤禮子

読み聞かせボランティア会員となり早 3 年が経ちました。先輩方が選ぶ絵本や読み方、勉強会などで、学びを得ながら、自分でも絵本選びや読み方の工夫を重ねる日々は、楽しくあつという間でした。

主な活動場所の図書館“おはなし室”は、皆、忙しい日常からふと解放され、親御さんもお子さんもしラックスして聞いてくださっています。とても穏やかな時間です。大人も子どもも引き付ける絵本の魅力は計り知れないですね。

きっかけは、地域と自分の好きな場所やモノで関わりがもてたらと巡らせていた時期に、「図書館」「絵本」「ボランティア活動」とつながり、説明会に参加したところ、みなさんがイキイキしておられ、即決いたしました。というのも、幼少の頃、移動図書館が来る日が楽しみでした。家でページをめくり絵本の世界に入り込み、空想にふける日々でした。大きくなるにつれ絵本から離れ、時々本屋さんで気になる絵本があると買う程度に。それが、出産を機に、また絵本に触れる機会を得て、子どもと共に楽しい時間を過ごす中で原点回帰、絵本のある生活を続けたいという気持ちに気づきました。

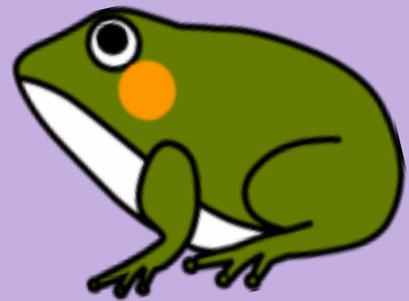
読み聞かせは、奥が深く、同じ絵本でも読み手により間合いや抑揚、ページめくりなど、それぞれです。共通しているのは、楽しんでもらいたい！何か感じとってもらえるモノがあれば幸い！という願い。これからもたくさんの絵本との出会い、それを分かち合える仲間や幸せを願う親子との出会いを楽しみに、読み聞かせボランティア活動を続けていきたいです。

ROMI

会員メッセージのコーナーは今年度で終了します。これまでありがとうございました。

ちいさいおうちに住むがまくんのつぶやき

加古里子さん



様々な児童書を楽しみつつ、作者や画家について知ることを細々と続けています。
現在は加古里子さん！

『だるまちゃんシリーズ(福音館書店)』、『からすのパンやさん』(偕成社)、『どろぼうがっこう』(偕成社)など、加古里子さんの作品は楽しいおはなしがたくさんあります。読んだ後にもう一度本を開き、びっしりと書き込まれた絵をじっくりと眺める楽しみもありますね。

東京帝国大学工学部応用化学科で学んだ加古里子さんは大学卒業後、仕事の傍らボランティアで子ども会に入り、多くの紙芝居を手作りして上演するなど、子どもたちのために精力的に活動しました。そのせいなのか、長い間がまくんにとって、加古里子さんはおはなしの本の作家さんというイメージがありました。数年前に「かこさとし展」を訪れた際、展示スペースに並ぶ科学絵本を一つ一つ見ながら、こんなに多くの科学の本を世に送り出したのかと驚きました。制作の日々はさぞかし多忙だったに違いありません。

加古里子さんの作品には、子どもたちへの溢れるほどの愛情と温かみを感じます。



ご連絡入会・見学のお問い合わせは

こちらから →

QRコードを読み込めない方は

下記へ直接ご連絡ください。

momofmimic-sakura@yahoo.co.jp



イラスト：わんぱぐ